2025年　愛知県農業総合試験場の10大成果

丸ごと甘い！イチジク新品種「愛知イチジク1号」を開発！

－黄緑色で皮ごと食べられる新品種を開発－

開発の背景・ニーズ

本県のイチジクの主要な栽培品種は「桝井ドーフィン」と「サマーレッド」ですが、産地の活性化に向けて、これまでにない形質を持つ新たなイチジク品種が求められていました。

そこで、2013年から新品種の開発に取り組み、果皮が黄緑色で果皮を含め丸ごと食べられる甘みの強い新品種を開発しました。

成 果 の 内 容

○ 2013年から交配と選抜を進め、2025年８月に品種登録出願を行いました。

○ 果実は桝井ドーフィンより数日遅い８月中旬から収穫可能で、やや小ぶり（約55g）で甘みが強く（糖度約17.5度）、丸ごと食べても果皮が気にならない特性があります。

○ ８月の高単価期の出荷時期に桝井ドーフィンで問題となるアザミウマ類の加害をほとんど受けません。

○ 高温乾燥時におけるしなび果の発生が少なく、降雨による腐敗のロスも少ない特長があります。

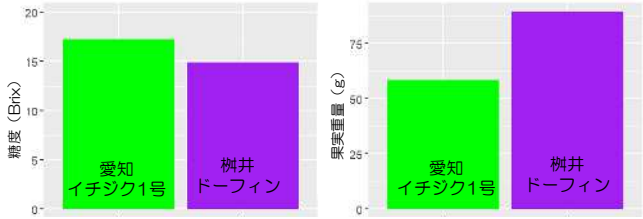
○ 葉が小さめで果実との風による擦れが少なく、桝井ドーフィンよりやや多めに結果枝の配置を行うことで、3.0 t/10a程度と桝井ドーフィン並みの収量を見込みます。

○ 強い日差しを浴びると果実に赤みを帯びることがありますが、果梗は短く、形状は雫のように可愛らしい形をしています。

【収穫始期の果実と葉】

【樹相と収穫前果実（結果枝下段）】

【糖度と果実重量】



愛知イチジク1号と桝井ドーフィンとの比較

2016-2024年まで8年間の平均値を集計

愛知県農業への貢献

赤系品種を主体とした本県のイチジク栽培の品種構成に黄緑色の新しいバリエーションを加えることで、新たな消費者や生産者を呼び込み、県内イチジクの消費と生産を活性化させることが期待できます。特に、果皮ごと食べられる形質は現在の消費トレンドと合致しており、イチジクの消費と生産の拡大に向けて新たな起爆剤となることが見込まれます。

園　芸　研　究　部